

聖書日課によれば、今日の聖書箇所はヨハネによる福音書17:13-26と定められています。ヨハネによる福音書は今日で終わります。ついでにはこの聖書箇所を手がかりに、ヨハネによる福音書の要点にまでさかのぼって、わたしたちに与えられた使信に聞きたいと思えます。

この祈りをとおして、イエスは彼を信じた人たちが集められて、決して揺るぐことがないつながり（共同体）を形作っていく道筋を述べておられます。つまり後にひとりとびとがキリスト教会と呼ぶことになる集団がいかにつくられていくかを教えておられます。

1 イエスはこれらの方を話してから、天を仰いで言われた。「父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現す（栄光化する）ようになるために、子に栄光を与えてください。2 あなたは子にすべての人を支配する権能をお与えになりました。そのために、子はあなたからゆだねられた人すべてに、永遠の命を与えることができるのです。3 永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。4 わたしは、行うようにとあなたが与えてくださった業を成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。5 父よ、今、御前でわたしに栄光を与えてください。世界が造られる前に、わたしがみもとで持っていたあの栄光を。6 世から選り出されてわたしに与えてくださった人々に、わたしは御名を現し

ました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに与えてくださいました。彼らは、御言葉を守りました。7 わたしに与えてくださったものはみな、あなたからのものであることを、今、彼らは知っています。

今日の聖書箇所を包括する祈り全体を要約すると、十字架刑に処せられることが確定になったイエスは、天を仰いで祈られます。ご自分の肉体が死に定められていることを自覚したイエスは、神のもとに召された後も、いかにして弟子たち、さらにまたこれから仲間に加えられるひとりとびとが、歩むべきか、その道筋を（8節）示しておられる・

(1) イエスが弟子たちに、神の言葉（真理）を与える、

神の言葉を与えられる、わたしたちはその言葉を聞くことから、すべてがはじまる。すなわち聖書読むことからすべてがはじまる。

8 なぜなら、わたしはあなたから受けた言葉を彼らに伝え、彼らはそれを受け入れて、わたしがみもとから出て来たことを本当に知り、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じたからです。

(2) そして弟子たちを聖別された、(9-19節)

聖別という言葉は、ユダヤ教から受け継がれました。すなわち神がその人の存在を祝福なさり、ただ神との関わりを中心に生きる人となされたのです。ここで弁えるべきことは、不完全なままで神は人を祝福なさるのです。聖別するということは、完全な聖なる人になるわけではないということです。

9 彼らのためにお願いします。世のためではなく、わたしに与えてくださった人々のためにお願ひします。彼らはあなたのもだからです。10 わたしのもはすべてあなたのもので、あなたのものはわたしのもです。わたしは彼らによって栄光を受けました。11 わたしは、もはや世にはいません。彼らは世に残りますが、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。わたしたちのように、彼らも一つとなるためです。12 わたしは彼らと一緒にいる間、あなたが与えてくださった御名によって彼らを守りました。わたしが保護したので、滅びの子のほかは、だれも滅びませんでした。聖書が実現するためです。13 しかし、今、わたしはみもとに参ります。世に

いる間に、これらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです。14 わたしは彼らに御言葉を伝えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないからです。15 わたしがお願ひするのは、彼らを世から取り去るのではなく、悪い者から守ってくださいることです。16 わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないのです。17 真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。18 わたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わしました。19 彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも、真理によってささげられた者となるためです。

(3) 世に派遣された弟子たちの言葉によりイエス

を信じる者たちが出てくる、イエスから直接言葉を与えられた弟子たちも、弟子たちの言葉によりイエスを信じる者たちも一つになることを、イエスは神に願ひ祈っておられます。

不完全な者たちが集められた、はじめにイエスによって招かれた弟子たち、弟子たちが遣わされて彼らの言葉により加わった不完全なひとびと、彼らが主の十字架により一つとされるのが教会の成熟である。

20 また、彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。

21 父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。22 あなたがくださった栄光を、わたしは彼らに与えましました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。23 わたしが彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです。

(4)世に対する宣教

世に対する宣教とは、わたしたちがイエスの十字架において一つとされることです。

「いつして、あなたがわたしをお遣わしになったこと、また、わたしを愛しておられたように、彼らをも愛しておられたことを、世が知るようになります。」

24 父よ、わたしに与えてくださった人々を、わたしのいる所に、共におらせてください。それは、天地創造の前からわたしを愛して、与えてくださったわたしの栄光を、彼らに見せるためです。

このような教会の形成と働きのほしまり、それは弟子たちとイエスとの出会いからはじまる。「世から選び出してわたしに与えてくださったひとびとに、わたしは名を現わしました(17・6)「神の名を顕わしたというイエスの業は、いかにしてなされたのか?」

選び出されたというのは、一般的に特権的な意味合いをもちますが、聖書に即して言うならば、それがどういう人であれ、イエスの十字架によって生きる意味を見いだした人だということになります。しかし選ばれたひとたちがの教会がつくられる過程でもっとも困難だと思われるのは、聖別というではないでしょうか。不完全のままでもよいと言われても、不完全であるからこそ神との関わりを遅かれ早かれ退けて神から離反してしまうのです。神との関わり妨げるものについて少し掘り下げて考えてみる必要があります。

それら妨げるものには五つあるといわれます。①感覚的な欲望、②邪な思い、③堕情や絶望、④情動不安、⑤懐疑心などです。これらがどれほど力強くわたしたちの歩む道を妨げるか、妨げてきたか、それをわたしたちは知っています。これはまたひとりだけの問題ではなく、人と人との交わりをも破壊する力を持っています。ひとりひとりが克服することができない問題は、人が集まる場所に集積され、社会規模の問題となります。

キリスト教会のはじまりには、それらを「ことごとく打ち壊し、弟子たちを神との関わりを中心に生きる者とする何かがあった、だから弟子たちの言葉はひとびとにも伝えられ教会は、かたちづくられていった。―その何かとは、イエスが十字架で死に伏された出来事だったのです。」

選び出されたひとびと、つまり教会の土台に据えられるべきものが、神の子であるイエスが顕わす栄光なのです。その栄光とは神の栄光である。それを「自分の死、すなわち十字架において顕わすことができる」とすれば、それはすべての人を支配する権威を持つことになる、なぜなら肉体が滅ぶ時、死の時こそ、何ものにも束縛されない自由があることを知ることができるからです。

終章

25 正しい父よ、世はあなたを知りませんが、わたしはあなたを知っており、この人々はあなたがわたしを遣わされたことを知っています。26 わたしは御名を彼らに知らせました。また、これからも知らせます。わたしに対するあなたの愛が彼らの内にあり、わたしも彼らの内にいるようになるためです。」「